

開発途上国の統計担当職員 17 名が統計実務を学びに来日 日本の統計業務に関する実地研修のため、島根県を訪問します！

統計は、生活を支える重要な情報基盤であるとともに、国づくりを進める上で必要な基礎データとなるものです。その意味で、信頼できる統計の作成は世界共通の課題であり、特に途上国における統計分野での人材育成が急務となっています。

そのような中で国連アジア太平洋統計研修所 (SIAP※) では、国際協力機構 東京センター (JICA 東京) との共催による「持続可能な開発目標 (SDGs のモニタリング) のための公的統計の理論と実務コース」で各国統計担当職員を日本に招へいし、統計実務に関する知識とスキルを向上させる研修を実施しています。今回、研修過程の一環として、日本における統計調査の実務等について学ぶ実地研修を、島根県にて受け入れます。

※SIAP は、国際連合アジア太平洋統計経済社会委員会の地域機関として、主にアジア太平洋域内諸国の政府職員を対象に、統計に関する専門知識を習得させることを目的として設立された国際研修機関であり、日本国政府（総務省）が研修実施に関する協力をを行っています。



(過去の研修風景)

国連アジア太平洋統計研修所
「持続可能な開発目標(SDGs)のモニタリングのための公的統計の理論と実務」コース
(独立行政法人国際協力機構との共同実施)について

1 研修目的

このコースは、開発途上国における 2030 アジェンダ及び持続可能な開発目標(SDGs)に不可欠な公的統計の整備・充実を図る見地から、これら諸国の政府統計職員に対して、統計調査及び指標の設計・解釈・公表における基礎理論と実務及び主要な公的統計の作成・解釈・普及の基準や枠組みについて研修を行い、知識及び公的統計作成能力を向上させることを目的としています。

2 研修対象者

このコースは、次の諸条件に該当する者を対象としています（主たる条件のみ掲記）。

- (1) アジア太平洋地域等の開発途上国 の政府統計職員であって、年齢が 40 歳以下であること。
- (2) 大学で統計学、数学若しくは経済学を専攻したこと、又はこれと同等の知識・経験を有していること。
- (3) 基本的な数学に関する知識及び基本的なコンピュータのスキルを十分有していること。
- (4) 国家統計局又は統計業務を実施している他の政府機関において少なくとも 5 年の業務経験があること。
- (5) 英語による講義、実習（討論、レポート、プレゼンテーション）に参加できる語学力を有していること。

3 研修期間

令和 7 年 7 月 28 日（月）～10 月 31 日（金）（うち日本での対面研修：9 月 9 日（火）～10 月 31 日（金））

4 研修場所

オンライン及び国連アジア太平洋統計研修所

（千葉県千葉市美浜区若葉 3-2-2 日本貿易振興機構アジア経済研究所ビル 4 階）

5 研修科目

- (1) 公的統計に関する基礎的理論及び実務
公的統計の基本的概念、統計調査の実務 等
- (2) 開発目標のモニタリングのための各種統計の作成
SDGs における公的統計の必要性、経済統計、人口・社会統計 等
※ 研修科目の一環として、島根県において、日本の地方公共団体における統計業務等について学ぶための実地研修を行う予定（10 月 1 ～ 3 日）

6 研修参加者

アジア太平洋地域等の開発途上国 13 か国から計 17 名の研修員が参加

参加国：エジプト、ホンジュラス、インドネシア、カザフスタン、マレーシア、マーシャル諸島、ネパール、パプアニューギニア、フィリピン、ソロモン諸島、タンザニア、トンガ、ウガンダ

7 島根県の実地研修における主なスケジュール

日時	内容	場所
10 月 1 日（水）	14:30～15:00 表敬訪問	職員会館多目的ホール
	15:10～16:20 県勢・家計調査概要説明	職員会館多目的ホール
	16:40～17:00 統計調査課視察	本庁舎 6 階
10 月 2 日（木）	10:00～11:40 家計調査実地世帯訪問	松江市内 1 世帯
	14:00～15:10 質疑応答	職員会館多目的ホール
	18:00～19:30 意見交換会	松江エクセルホテル東急
10 月 3 日（金）	9:30～11:15 事業所見学	島根県産業技術センター